

第20回 子どもの本この1年を振り返って 2019年



本資料の一部または全てを無断で転載・複製・加工することは固くお断りいたします

■おすすめ図書リストの見方

★	小低	『なまえのないねこ』/竹下 文子・文, 町田 尚子・絵/小峰書店/2019. 4/ ¥1500/(絵本)
---	----	---

特におすすめの図書は★で表示。「おすすめ図書紹介」で紹介しています

その図書に相当と思われる利用対象を表示しています

□図書の利用対象について
利用対象の表記は以下の通りです。

「幼」=幼年

「中学」=中学校

「小低」=小学校低学年

「高校」=高校

「小中」=小学校中学年

「小高」=小学校高学年

□表記順について

各図書は、『書名 副書名(あれば)』(シリーズ名(同左)) / 責任表示 / 出版社 / 版年 / 金額(本体価格) / 分類 の順で記載しています。

絵本

	幼	『かわにくまがおっこちた』/リチャード・T. モリス・著, レウイン・ファム・絵, 木坂 涼・訳/岩崎書店/2019. 8/¥1500/(絵本)
--	---	--

上下巻・全集などの場合

★	小高	『はじめての万葉集 上』/萩原 昌好・編, 中島 梨絵・絵/あすなろ書房/2019. 7/¥1600/(911. 12)
---	----	--

	小高	『プログラミングガールズ! 1 ルーシーなぞのメッセージを追え』/ステイシア・ドイツ・作, 美馬 しょうこ・訳, 高橋 由季・絵, 石戸 奈々子・監修/偕成社/2019. 7/¥1200/(933. 7)
--	----	--

『書名 巻数 副書名(あれば) 巻書名(同左)』(シリーズ名(同左)) / 責任表示 / 出版社 / 版年 / 金額(本体価格) / 分類 の順で記載しています。

本資料に掲載された「おすすめ図書リスト」は、「子どもの本2019」各選者の判断に基づき、お薦め図書として選書されたものです。

選書された図書の内容について保証もしくは宣伝するものではありませんので、図書リストは「おすすめ図書紹介」と併せてご覧いただき、皆様ご自身の判断に基づいて、ご参照くださいますようお願いいたします。

- ◆ 猛暑や甚大な被害を齎した豪雨災害、大型台風の来襲などが相次ぎ、地球温暖化で海が温まることや気候変動などについて世論が高まった。生態系の変化に対しても一層、憂慮された。
「大人の世代は何もしていない」と、大人たちに行動を求めたスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん(17)の訴えは世界の若者を動かした。
日本でも「グローバル気候マーチ」としてグレタさんに共感する動きが見られた。
地球の環境を守るために私たちはどう行動すべきか、国連のSDGs(持続可能な開発目標)は17分野の目標を掲げ、2030年までの達成を目指している。
2019年のノンフィクションでは地球環境について取りあげた本、特にプラスチック汚染を重要視した本の刊行が多かった。
- ◆ 新学習指導要領にも取り上げられるSDGs関連の本が多数出版された。
教科化されるプログラミングや道徳の本も数多く出た。
- ◆ 難民問題、平和をテーマにした読物など、子どもたちに手渡して行きたい秀逸な作品がみられた。
フィクションとノンフィクションの融合、ハイブリッドな本が目立った。
戦争と平和、領土問題、沖縄の基地を取りあげた作品など、戦争を語り継ぐ人たちの高齢化とともに貴重な資料として今後も残していきたい。
- ◆ ICT教育が進み、探求型授業に即した専門的な本が刊行された。
図鑑のDVD、QRコード付きは、これまでも多かったが、科学絵本などにもQRコードが付くようになり、生きものが動く姿が見られるなど関心が高まった。
- ◆ 低学年向き、自然科学系の本が全体的に少なかったのが特徴的だった。
子どもたちに科学の楽しさを伝えられるような科学絵本、科学読物の刊行を期待したい。
- ◆ 50年の記録 創刊から50年を迎えた月刊科学絵本「かがくのとも」(福音館書店)がこれまでの601作品を紹介して刊行された。

■科学入門

★	幼	『どっち?』/まつおか たつひで・さく/ハッピーオウル社/2019. 8/¥1400/(絵本)
---	---	---

■科学一般

	小高	『ダーウインの「種の起源」 はじめての進化論』/サビーナ・ラデヴァ・作・絵, 福岡 伸一・訳/岩波書店/2019. 4/¥2300/(467. 5)
	中学	『カガク力を強くする!』(岩波ジュニア新書 901)/元村 有希子・著/岩波書店/2019. 7/¥860/(404)

■自然観察・飼育

	小低	『ミツバチだいすき ぼくのおじさんはようほう家』(科学シリーズ)/藤原 由美子・文, 安井 寿磨子・絵/福音館書店/2019. 5/¥1500/(絵本)
	小中・小高	『博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう 1 100円グッズと身近な道具でできる! 発見と採集』/小川 誠・共著, 奥山 清市・共著, 矢野 真志・共著/少年写真新聞社/2019. 9/¥2000/(407)
	小中・小高	『博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう 2 100円グッズと身近な道具でできる! 観察と調査』/小川 誠・共著, 奥山 清市・共著, 矢野 真志・共著/少年写真新聞社/2019. 10/¥2000/(407)
★	小中・小高	『博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう 3 100円グッズと身近な道具でできる! 標本と工作』/小川 誠・共著, 奥山 清市・共著, 矢野 真志・共著/少年写真新聞社/2019. 11/¥2000/(407)
	小中・小高	『博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう 4 100円グッズと身近な道具でできる! 展示と発表』/小川 誠・共著, 奥山 清市・共著, 矢野 真志・共著/少年写真新聞社/2019. 12/¥2000/(407)

■天文・宇宙

★	小中・小高	『キュリオシティ ぼくは、火星にいる』/マーカス・モートン・作, 松田 素子・訳, 渡部 潤一・日本語版監修/BL出版/2019. 2/¥2500/(絵本)
---	-------	--

■地球科学・気象・岩石

	幼・小低	『つらら みずとさむさとちきゅうのちから』(ふしぎいっぱい写真絵本 36)/細島 雅代・写真, 伊地知 英信・文/ポプラ社/2019. 1/¥1500/(451. 68)
	小中・小高	『世界をうごかした科学者たち 地質学者』/フェリシア・ロー・文, 本郷 尚子・訳/ほるぷ出版/2019. 3/¥2800/(450. 28)

★	小中・小高	『火山はめざめる』(科学シリーズ)/はぎわら ふぐ・作, 早川 由紀夫・監修/福音館書店/2019. 6/¥1500/(絵本)
★	幼・小低	『ふゆとみずのまほうこおり』(ふしぎいっぱい写真絵本 38)/片平 孝・写真・文/ポプラ社/2019. 11/¥1500/(451. 68)

■生物一般

	中学	『生きものとは何か 世界と自分を知るための生物学』(ちくまプリマー新書 319)/本川 達雄・著/筑摩書房/2019. 2/¥950/(460)
--	----	--

■微生物・菌類

★	小中・小高	『こうぼ』(菌の絵本)/浜本 牧子・監修, 堀川 理万子・絵/農山漁村文化協会/2019. 3/¥2500/(465. 8)
★	小中・小高	『ねん菌くへんけい菌』(菌の絵本)/川上 新一・監修, 新井 文彦・写真, 加藤 休ミ・絵/農山漁村文化協会/2019. 3/¥2500/(473. 3)
	幼	『たべたらうち!』(しぜんにタッチ!)/ひさかたチャイルド/2019. 4/¥1300/(481. 34)
★	小中	『ほうさんちゅう ちいさなふしぎな生きもののかたち』/松岡 篤・監修, かんちく たかこ・文/アリス館/2019. 7/¥1400/(絵本)
★	小高	『先生、ウンチとれました 野生動物のウンチの中にある秘密』/牛田 一成・著/さ・え・ら書房/2019. 9/¥1400/(481. 34)

■植物

★	小中	『ようこそ! 葉っぱ科学館』(植物たちの声を聞く たえこ先生のわ! 観察記)/多田 多恵子・写真・文/少年写真新聞社/2019. 1/¥1500/(471. 1)
★	小低・小中	『ずかん こけ 見ながら学習調べてなっとく』/木口 博史・著, 古木 達郎・著/技術評論社/2019. 2/¥2680/(475)
	小低	『きほんの木 花がきれい』/姉崎 一馬・写真, 姉崎 エミリー・文/アリス館/2019. 4/¥1500/(653. 2)

■古生物

	小低	『とりになったきょうりゅうのはなし 改訂版』(かがくのとも絵本)/大島 英太郎・さく/福音館書店/2019. 2/¥900/(絵本)
--	----	--

■動物一般

	小低	『うまれたよ！タコ』(よみきかせいきものしゃしんえほん 31)/櫻井 季己・写真・文/岩崎書店/2019. 1/¥2200/(絵本)
	小低	『うまれたよ！イカ』(よみきかせいきものしゃしんえほん 32)/櫻井 季己・写真・文/岩崎書店/2019. 1/¥2200/(絵本)
	小低・小中	『どうぶつのふしぎ』/にしもと おさむ・作・絵, 清水 洋美・構成・文/世界文化社/2019. 2/¥1200/(480)

■無脊椎動物・昆虫

★	小低	『うまれたよ！ナナフシ』(よみきかせいきものしゃしんえほん 35)/安田 守・写真・文/岩崎書店/2019. 3/¥2200/(絵本)
★	小低・小中	『われから かいそうのもりにすむちいさないきもの』(海のナンジャコリヤーズ 1)/青木 優和・文, 畑中 富美子・絵/仮説社/2019. 3/¥1800/(絵本)
	小中	『キモカワ！イモムシ超百科』(これマジ？ひみつの超百科 16)/やぎ まきこ・著, いのうえ けいこ・著, 矢後 勝也・監修, 中島 秀雄・監修/ポプラ社/2019. 3/¥890/(486. 8)
★	小低・小中	『ナマコ天国』/本川 達雄・作, こしだ ミカ・絵/偕成社/2019. 6/¥1600/(絵本)
★	小低	『ハエトリグモ ちいさなハンター』(ふしぎいっぱい写真絵本 37)/坂本 昇久・写真・文/ポプラ社/2019. 6/¥1500/(485. 73)
	小低・小中	『イモムシとケムシ チョウ・ガの幼虫図鑑』(小学館の図鑑NEO POCKET 11)/鈴木 知之・執筆・写真・幼虫飼育, 横田 光邦・執筆・写真・幼虫飼育, 筒井 学・執筆・写真・幼虫飼育, 広渡 俊哉・監修, 矢後 勝也・監修, 杉本 美華・監修協力/小学館/2019. 6/¥950/(486. 8)
★	小中	『ふしぎないきものツノゼミ』/丸山 宗利・写真・文, 小松 貴・写真・文, 知久 寿焼・写真・文/あかね書房/2019. 7/¥1500/(486. 5)

■魚類・両生類・爬虫類

	小低	『うまれたよ！イモリ』(よみきかせいきものしゃしんえほん 34)/関 慎太郎・写真・文/岩崎書店/2019. 3/¥2200/(絵本)
★	小高・中学	『日本カエル探検記 減っているってほんと！？』/関 慎太郎・写真・文/少年写真新聞社/2019. 5/¥1600/(487. 85)
	小低・小中	『奄美の森でカエルがいない』(奄美の生きもの調査)/松橋 利光・写真・文/アリス館/2019. 5/¥1400/(487. 85)
	小中	『フシギなさかな ヒメタツのひみつ』/尾崎 たまき・写真・文/新日本出版社/2019. 5/¥1500/(絵本)

	小中・小高	『ミッション・ウミガメ・レスキュー』(NATIONAL GEOGRAPHIC)/カレン・ロマノ・ヤング・著, 田中 直樹・日本版企画監修, 松沢 慶将・監修/ハーパーコリンズ・ジャパン/2019. 6/¥1600/(487. 95)
--	-------	--

■鳥類

★	小中・小高	『クマゲラ』(北国からの動物記 9)/竹田津 実・文・写真/アリス館/2019. 2/¥1400/(488. 86)
	小中・小高	『スズメのくらし』(たくさんのふしぎ傑作集)/平野 伸明・文・写真/福音館書店/2019. 2/¥1300/(488. 99)
★	小中・小高	『うみどりの島』/寺沢 孝毅・文, あべ 弘士・絵/偕成社/2019. 4/¥1400/(絵本)

■哺乳類

	幼・小低	『のうさぎ』/高橋 喜平・ぶん, 藪内 正幸・え/福音館書店/2019. 4/¥900/(絵本)
--	------	--

■環境・エネルギー

★	小高	『国谷裕子と考えるSDGsがわかる本』/国谷 裕子・監修/文溪堂/2019. 1/¥4500/(333. 8)
	小中	『ごみはどこへ ごみのしよりと利用 1 ごみを調べよう』/高月 紘・監修, WILLこども知育研究所・編・著/金の星社/2019. 2/¥3200/(518. 52)
	小中	『ごみはどこへ ごみのしよりと利用 2 ごみのゆくえ』/高月 紘・監修, WILLこども知育研究所・編・著/金の星社/2019. 3/¥3200/(518. 52)
	小中	『ごみについて調べよう 1 Reduce・リデュース』/岡山 朋子・監修/あかね書房/2019. 3/¥3000/(518. 52)
	小中	『ごみについて調べよう 2 Reuse・リユース』/岡山 朋子・監修/あかね書房/2019. 3/¥3000/(518. 52)
	小中	『ごみについて調べよう 3 Recycle・リサイクル』/岡山 朋子・監修/あかね書房/2019. 3/¥3000/(518. 52)
★	小中	『ポリぶくろ、1まい、すてた』/ミランダ・ポール・文, エリザベス・ズーノン・絵, 藤田 千枝・訳/さ・え・ら書房/2019. 2/¥1500/(絵本)
★	小高	『身近でできるSDGsエシカル消費 1 エシカル消費ってなに?』/三輪 昭子・著, 山本 良一・監修/さ・え・ら書房/2019. 3/¥2500/(519. 13)

	小高	『身近でできるSDGsエシカル消費 2 エシカル消費でSDGsを！』/三輪 昭子・著, 山本 良一・監修/さ・え・ら書房/2019. 5/¥2500/(519. 13)
	小高	『身近でできるSDGsエシカル消費 3 エシカル消費をやってみよう！』/三輪 昭子・著, 山本 良一・監修/さ・え・ら書房/2019. 5/¥2500/(519. 13)
★	小高	『プラスチック・プラネット 今、プラスチックが地球をおおっている 明日からプラスチックゴミをなくそう』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/ジョージア・アムソン=ブラッドショー・作, 大山 泉・訳/評論社/2019. 7/¥2200/(519)
★	小中・小高	『北極と南極の「へえ～」くらべてわかる地球のこと』(環境ノンフィクション)/中山 由美・文・写真, 秋草 愛・絵/学研プラス/2019. 8/¥1400/(462. 77)
	小中・小高	『じゅんぴはいいかい？ 名もなきこざるとエシカルな冒険』/末吉 里花・文, 中川 学・絵/山川出版社/2019. 7/¥1500/(絵本)
	小中・小高	『地球が危ない！プラスチックごみ 1 海洋プラスチック』/幸運社・編/汐文社/2019. 9/¥2600/(519)
	小中・小高	『地球が危ない！プラスチックごみ 2 日本中にあふれるプラスチック』/幸運社・編/汐文社/2019. 12/¥2600/(519)
★	小高	『海は地球のたからもの 1 海は病気にかかっている』/保坂 直紀・著/ゆまに書房/2019. 11/¥2500/(452)
	中学	『プラスチック・スプーンの地球 汚染される「水の惑星」』/ミヒル・ロスカム・アビング・著, 藤原 幸一・監訳/ポプラ社/2019. 11/¥3800/(519. 4)

■防災・防犯・サバイバル

	小高	『災害にあったペットを救え 獣医師チームVMAT』(ノンフィクション・いまを変えるチカラ)/高橋うらら・著/小峰書店/2019. 3/¥1500/(645. 9)
★	小高	『親子で学ぶ防災教室 災害食がわかる本 新装版』/今泉 マユ子・著/理論社/2019. 6/¥1400/(369. 3)
	小高	『親子で学ぶ防災教室 身の守りかたがわかる本 新装版』/今泉 マユ子・著/理論社/2019. 6/¥1400/(369. 3)
	小中・小高	『ピンチ！！でもそれはチャンスだ！』/大野 正人・著/高橋書店/2019. 7/¥1200/(159. 5)
	小中・小高	『しりたいな全国のまちづくり 1 防災・環境とまちづくり』/岡田 知弘・監修, 本堂 やよい・執筆, 八木 絹・執筆/かもがわ出版/2019. 7/¥2800/(318. 6)

■科学技術・産業

	小中・ 小高	『ボク、もぐらんぴあ 応援団長はさかなクン！ 東日本大震災で全壊した水族館の物語』/朝日小学生新聞・著, 久慈地下水族科学館もぐらんぴあ・監修, さかなクン・協力/朝日学生新聞社/2019. 1/¥1300/(480. 76)
★	小中・ 小高	『47都道府県調べて楽しい！！あなたのまちの凄い！地場産業めぐり 3 自然と技術の融合 中国・四国・九州・沖縄編』/教育画劇/2019. 4/¥3500/(602. 1)

■農業・畜産・水産業

	小中・ 小高	『トウモロコシの大百科』(まるごと探究！世界の作物)/濃沼 圭一・編/農山漁村文化協会/2019. 3/¥3500/(616. 61)
★	小高	『科学がひらくスマート農業・漁業 2 野菜とフルーツを工場でつくる』/小泉 光久・著, 寺坂 安里・絵/大月書店/2019. 3/¥2600/(614. 8)
★	小高	『科学がひらくスマート農業・漁業 3 肉とミルク、卵をつくる新技術』/小泉 光久・著, 寺坂 安里・絵/大月書店/2019. 3/¥2600/(614. 8)
★	小高	『科学がひらくスマート農業・漁業 4 魚をそだてる海の牧場』/小泉 光久・著, 寺坂 安里・絵/大月書店/2019. 4/¥2600/(614. 8)
★	小中・ 小高	『田んぼの1年 里山の自然』/瀬長 剛・絵・文/偕成社/2019. 12/¥2500/(616. 2)

■土木・建築

	小高	『ダムたんけん』(土木の世界ードボジョママに聞くと)/福手 勤・監修, 星の環会・編/星の環会/2019. 4/¥2900/(517. 7)
★	小高	『地下都市たんけん』(土木の世界ードボジョママに聞くと)/福手 勤・監修, 星の環会・編/星の環会/2019. 4/¥2900/(510)
	小高	『橋たんけん』(土木の世界ードボジョママに聞くと)/福手 勤・監修, 星の環会・編/星の環会/2019. 4/¥2900/(515)

■工作・遊び・自由研究

	小中	『けん玉を楽しむ』(むかしからつたわる遊び)/WILLこども知育研究所・編・著/金の星社/2019. 3/¥2800/(384. 55)
	小中	『お手玉を楽しむ』(むかしからつたわる遊び)/WILLこども知育研究所・編・著/金の星社/2019. 3/¥2800/(384. 55)

■福祉・障害

★	小中・ 小高	『あの子の発達障害がわかる本 1 ちょっとふしぎ 自閉スペクトラム症ASDのおともだち』/内山 登紀夫・監修/ミネルヴァ書房/2019. 3/¥2200/(378. 8)
	小中・ 小高	『あの子の発達障害がわかる本 2 ちょっとふしぎ 学習障害LDのおともだち』/内山 登紀夫・監修/ミネルヴァ書房/2019. 3/¥2200/(378. 8)
	小中・ 小高	『あの子の発達障害がわかる本 3 ちょっとふしぎ 注意欠如・多動症ADHDのおともだち』/内山 登紀夫・監修/ミネルヴァ書房/2019. 3/¥2200/(378. 8)

■伝記・生き方

	小中・ 小高	『お話の種をまいて プエルトリコ出身の司書プーラ・ベルプレ』/アニカ・アルダムイ・デニス・作, パオラ・エスコバル・絵, 星野 由美・訳/汐文社/2019. 2/¥1800/(絵本)
	小高・ 中学	『イクバルの闘い 世界一勇気ある少年 新装版』(鈴木出版の児童文学)/フランチェスコ・ダダモ・作, 荒瀬 ゆみこ・訳/鈴木出版/2019. 1/¥1600/(973)
	小中・ 小高	『草木とみた夢 牧野富太郎ものがたり』/谷本 雄治・文, 大野 八生・絵/出版ワークス/2019. 3/¥1600/(絵本)
★	小高	『わたしは女の子だから 世界を変える夢をあきらめない子どもたち』/ローズマリー・マカーニー・文, ジェン・オールバー・文, プラン・インターナショナル・文, 西田 佳子・訳/西村書店/2019. 3/¥2300/(367. 6)
	小中・ 小高	『椋鳩十 生きるすばらしさを動物物語に』(伝記を読もう 16)/久保田 里花・文, 水上 みのり・画/あかね書房/2019. 3/¥1500/(910. 268)
	小高・ 中学	『自分を信じた100人の男の子の物語 世界の変え方はひとつじゃない』/ベン・ブルックス・文, クイントン・ウィンター・絵, 芹澤 恵・訳, 高里 ひろ・訳/河出書房新社/2019. 4/¥2400/(280. 4)
★	小高・ 中学	『自由への道 奴隷解放に命をかけた黒人女性ハリエット・タブマンの物語』(ヒューマンノンフィクション)/池田 まき子・文, 丹地 陽子・絵/学研プラス/2019. 6/¥1500/(289. 3)
	小高	『ソングジュの見た星 路上で生きぬいた少年』/リ ソングジュ・著, スーザン・マクレランド・著, 野沢佳織・訳/徳間書店/2019. 5/¥2000/(936)
	小中・ 小高	『読む喜びをすべての人に 日本点字図書館を創った本間一夫』(感動ノンフィクションシリーズ)/金治 直美・文/佼成出版社/2019. 8/¥1500/(289. 1)
★	小高・ 中学	『科学者の目 新版』/かこ さとし・文と絵/童心社/2019. 7/¥1400/(402. 8)
★	小高・ 中学	『かくれ家のアンネ・フランク』(岩波少年文庫 620)/ヤニー・ファン・デル・モーレン・作, 西村由美・訳/岩波書店/2019. 8/¥760/(289. 3)

■社会・暮らし・文化

	小中・小高	『ひとりのできるかな？はじめての家事 4 せんたく、ひとりのできるかな？』/家庭科教育研究者連盟・編, 大橋 慶子・絵/大月書店/2019. 1/¥2400/(590)
★	小中	『めぐみの森』/藤原 幸一・しゃしん・ぶん/新日本出版社/2019. 4/¥1500/(652. 2)
	小中・小高	『おきなわが食べてきたもの』/上里 隆史・文, ぎすじ みち・絵/ボーダーインク/2019. 4/¥1400/(383. 8199)
	小高・中学	『奈良監獄物語 若かった明治日本が夢みたもの』/寮 美千子・文, 磯 良一・絵/小学館クリエイティブ/2019. 6/¥1200/(326. 52)
	小高・中学	『民主主義は誰のもの？』(あしたのための本)/プランテルグループ・文, マルタ・ピナ・絵, 宇野 和美・訳/あかね書房/2019. 7/¥1800/(311. 7)
	小高・中学	『独裁政治とは？』(あしたのための本)/プランテルグループ・文, ミケル・カサル・絵, 宇野 和美・訳/あかね書房/2019. 7/¥1800/(313. 8)
	小高・中学	『社会格差はどこから？』(あしたのための本)/プランテルグループ・文, ジュアン・ネグレスコロール・絵, 宇野 和美・訳/あかね書房/2019. 7/¥1800/(361. 8)
	小高・中学	『女と男のちがいて？』(あしたのための本)/プランテルグループ・文, ルシ・グティエレス・絵, 宇野 和美・訳/あかね書房/2019. 7/¥1800/(367. 1)
	小中・小高	『つながる』/長倉 洋海・著/アリス館/2019. 6/¥1400/(748)
	小高・中学	『こども六法』/山崎 聡一郎・著, 伊藤 ハムスター・絵/弘文堂/2019. 8/¥1200/(320. 91)
★	小高・中学	『わきだせ！いのちの水 日本伝統の上総掘り井戸をアフリカに』(フレーベル館ノンフィクション)/たけたに ちほみ・著/フレーベル館/2019. 10/¥1500/(518. 12)

■歴史・考古学

	小中・小高	『歴史ごはん 第2巻 食事から日本の歴史を調べる 食べられる歴史ごはんレシピつき！ 平安～鎌倉～室町時代の食事』/永山 久夫・監修, 山本 博文・監修/くもん出版/2019. 2/¥2800/(383. 81)
	小中・小高	『歴史ごはん 第3巻 食事から日本の歴史を調べる 食べられる歴史ごはんレシピつき！ 安土・桃山～江戸時代、現代の食事』/永山 久夫・監修, 山本 博文・監修/くもん出版/2019. 2/¥2800/(383. 81)
★	小中	『えほん東京』/小林 豊・作・絵/ポプラ社/2019. 3/¥1500/(絵本)
★	小高・中学	『ミイラ学 エジプトのミイラ職人の秘密』/タマラ・パウワー・著・絵, こどもくらぶ・訳・編/今人舎/2019. 8/¥2000/(242. 03)

	小高	『売り声図鑑 3 江戸のくらしとリサイクル』/宮田 章司・文, 瀬知 エリカ・絵, 市川 寛明・監修/絵本塾出版/2019. 8/¥1800/(384. 3)
--	----	---

■戦争と平和

	小高	『シリーズ戦争 語りつごう沖縄 2 琉球王国から沖縄県へ』/安斎 育郎・文・監修/新日本出版社/2019. 1/¥2500/(219. 906)
	小高	『シリーズ戦争 語りつごう沖縄 3 悲劇の沖縄戦』/安斎 育郎・文・監修/新日本出版社/2019. 1/¥2500/(219. 906)
★	小高	『シリーズ戦争 語りつごう沖縄 4 基地問題にゆれる島』/安斎 育郎・文・監修, 普天間 朝佳・文・監修/新日本出版社/2019. 4/¥2500/(219. 906)
★	小高	『シリーズ戦争 語りつごう沖縄 5 沖縄戦を忘れない』/安斎 育郎・文・監修/新日本出版社/2019. 4/¥2500/(219. 906)
★	中学	『平和のバトン 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶』/弓狩 匡純・著/くもん出版/2019. 6/¥1500/(319. 8)
	小高	『じいじが迷子になっちゃった あなたへと続く家族と戦争の物語』/城戸 久枝・著, 羽尻 利門・画/偕成社/2019. 8/¥1600/(289. 1)
★	小中	『ヒロシマ消えたかぞく A Family in Hiroshima: Their Vanished Dreams』(ポプラ社の絵本 67)/指田 和・著, 鈴木 六郎・写真/ポプラ社/2019. 7/¥1650/(絵本)
★	小高	『戦場の秘密図書館 シリアに残された希望』/マイク・トムソン・著, 小国 綾子・編訳/文溪堂/2019. 12/¥1500/(010. 2275)

■伝統工芸・文化

	小低・小中	『ちいさな島のおおきな祭り』/浜田 桂子・文・絵/新日本出版社/2019. 5/¥1500/(絵本)
★	小高・中学	『伝統工芸の名人に会いに行く 1 やきもの』/瀬戸山 玄・文と写真/岩崎書店/2019. 11/¥2800/(750. 21)
★	小高・中学	『よみがえった奇跡の紅型』/中川 なをみ・著/あすなろ書房/2019. 11/¥1500/(753. 8)

■国際理解

	小高・中学	『国籍の？がわかる本 日本人ってだれのこと？外国人ってだれのこと？』/木下 理仁・著, 山中 正大・イラスト/太郎次郎社エディタス/2019. 4/¥1000/(329. 91)
--	-------	---

★	小高	『故郷の味は海をこえて「難民」として日本に生きる』(ポプラ社ノンフィクション 37)/安田 菜津紀・著・写真/ポプラ社/2019. 11/¥1400/(369. 38)
---	----	--

■哲学・心理学・道徳

	小高	『シリーズ・道徳を考える 1 道徳ってなに?』/内田 樹・著, こどもくらぶ・編/かがわ出版/2019. 1/¥2500/(150)
	小高	『シリーズ・道徳を考える 2 道徳的なふるまいとは?』/内田 樹・協力, こどもくらぶ・編/かがわ出版/2019. 2/¥2500/(150)
★	小高	『シリーズ・道徳を考える 3 なぜ、道徳を学ぶの?』/内田 樹・協力, こどもくらぶ・編/かがわ出版/2019. 2/¥2500/(150)
	小高	『対話ではじめるこどもの哲学 1 道徳ってなに? 自分のぎもん』/河野 哲也・著/童心社/2019. 3/¥2250/(104)
	小高	『対話ではじめるこどもの哲学 2 道徳ってなに? 家族・友だちのぎもん』/河野 哲也・著/童心社/2019. 3/¥2250/(104)
	小高	『対話ではじめるこどもの哲学 3 道徳ってなに? 社会のぎもん』/河野 哲也・著/童心社/2019. 3/¥2250/(104)
	小高	『対話ではじめるこどもの哲学 4 道徳ってなに? 命・自然のぎもん』/河野 哲也・著/童心社/2019. 3/¥2250/(104)

■大人向け

★	大人	『かがくのとものもと 月刊科学絵本「かがくのとも」の50年』/福音館書店/2019. 4/¥2500/(019. 53)
---	----	--

■2019年のノンフィクション

2019年、猛暑や甚大な被害を齎した豪雨災害、大型台風などの来襲が相次ぎ、地球温暖化で海が温まることや気候変動などについて世論が高まり、生態系の変化についても一層、憂慮されました。「大人の世代は何もしていない」と、大人たちに行動を求めたスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん（17）の訴えは世界の若者を動かし、日本でも「グローバル気候マーチ」としてグレタさんに共感する動きが見られました。地球の環境を守るために私たちはどう行動すべきか、国連のSDGs（持続可能な開発目標）は17分野の目標を掲げ、2030年までの達成を目指しています。

2019年のノンフィクションでは、こういった社会情勢を受け、地球環境について取り上げた本、特にプラスチック汚染を重要視した本の刊行が相次ぎ、新学習指導要領にも取り上げられるSDGs関連の本が多く出版されました。また、ICT教育が進み、探求型授業に即した専門的な本も刊行されました。図鑑のDVD、QRコード付きの本はこれまでも多くありましたが、科学絵本などにもQRコードが付くようになり、生き物の動く姿が見られるなど関心が高まりました。教科化されるプログラミングや道徳の本も数多く出た一方、低学年向きの自然科学系の本が少なかったのが特徴的でした。そのほか、難民問題、平和をテーマにした読物など、子どもたちに手渡していきたい秀逸な作品も多く見られ、戦争を語り継ぐ人々の高齢化が進む中、戦争と平和、領土問題、沖縄の基地について取り上げた本などは、貴重な資料として今後も残していきたいと思えます。

■科学入門

最初に紹介するのは、まつおかたつひでさんの絵本『どっち？』（ハッピーオウル社）。かえるちゃんがお気に入りの「かえるカー」でお出かけします。最初に出会ったのは、2匹のだんごむし。そっくりだけど、もようがあるのは女の子。真っ黒なのは男の子です。進んでいくと、次に現れたのはちょうちょ。黄色と白のちょうちょは、どっちが男の子で、どっちが女の子でしょうか？いろいろな生き物と出会いながら、かえるちゃんと一緒に学んでいくことができます。小さい子たちに、科学の面白さを伝えるための入門の書として、読み聞かせするとよい絵本です。

■自然観察・飼育

少年写真新聞社の『博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう』は、自然史系博物館で働いている専門の学芸員が、「秘密のスゴ技」を、身近な材料を使って工夫した道具で探求してみようというシリーズです。第3巻『標本と工作』では、身近な道具で作ることができる様々な標本や工作が掲載されていて、大人と一緒に作る「葉脈標本」や、ハンカチの染め物など、楽しい工作が盛りだくさんです。ただ、これらの工作を作る材料として、100円ショップの利用などを薦めていることもあり、今、問題となっているプラスチックごみを多く出す可能性もあるため、子どもにすすめる際は、大人が少し配慮する必要があるかもしれません。

■天文・宇宙

地球以外にも、生き物はいるのか？2012年に火星に到着した、実在の火星探査車について描いた絵本『キュリオシティ』（BL出版）。火星は地球とよく似た惑星で、生き物が「いる」あるいは「いた」可能性を秘めているといわれています。また、地球と同じように水があったとも。火星までは6億キロあるために、到着するまでに半年以上かかることや（しかも、距離はいつでも同じではない）、1969年に人類が降り立った月よりも火星は遠いといったことなど、好奇心が満たされる一冊で、火星探査の歴史が分かります。本書を訳されたのは、編集者・作家として活躍される松田素子さん。また、本書の日本語版の監修をされているのは、国立天文台副台長などを務め、流星・彗星などの研究をされている渡部潤一さんです。

■地球科学・気象・岩石

日本を代表する火山の様々なめざめを、25,000年前まで遡って、山のすそ野に住む人々の暮らしと共に描いた『火山はめざめる』（福音館書店）。モデルとなった浅間山の昭和、江戸、平安時代、25,000年前の山体崩壊など場面ごとの絵を繊細に且つ雄大に描いています。崩れ落ちた山体は土石なだれとなって、北にカーブし、関東平野に広い台地を作りました。群馬県の前橋市や高崎市は、この台地の上に形成された都市です。描かれている山が浅間山であることは物語の中では書かれておらず、本書の「解説」（p. 38）で明かされる形になっています。地質学的に詳しくだけでなく、人々の服装や住居の形式、育てられている作物など、正確な時代考証に基づいて描かれ、興味深い作品です。本書の監修は、群馬大学教育学部教授の早川由紀夫さん。地質学が専門で、ドローンによる空中撮影を得意とされているそうです。

『ふゆとみずのまほう こおり』は、「ふしぎいっぱい写真絵本」シリーズ（ポプラ社）の一冊。以前、『つらら』（2019年1月刊）『おかしなゆき ふしぎなこおり』（2012年11月刊）という本が出版されましたが、特に『おかしなゆき ふしぎなこおり』は評判が高く、読み聞かせをした際に、聴いていた子どもたちがとても驚いたという声も伝わってきました。本書は、氷が見せる多様な姿や不思議な性質が分かります。水は凍るとき、環境条件によって、さまざまな形を見せます。凍り始めるときに不思議な模様をつくる湖や、厳しい寒さのなかで凍りついた巨大な滝など、頁をめくるごとに驚き、目を見張ります。巻末には詳しい説明もあります。写真を担当するのは、写真家の片平孝さん。宮城県生まれで、小さい頃から雪や氷に興味を持って育ったとのことで、世界中を回って撮影を続けています。

■微生物・菌類

「微生物・菌類」の「菌」という字は、「くさかんむり」「くにがまえ」「のぎ」から成り立っています。「くさかんむり」は植物、「のぎ」は穀物を表しており、昔の人々は菌を植物のなかまと捉えていたようです（カバー折り返しより）。今では大気圏から深海まで、様々な菌が存在することが知られるようになってきており、今年も菌を取り上げた本がたくさん出版されました。

「菌類」というテーマから取り上げるのは、『こうぼ』（農山漁村文化協会）。こちらは、かび、きのこ、酵母、細菌など、様々な菌を取り上げた「菌の絵本」シリーズの一冊です。毎日食べているパンや醤油、酒などに利用されてきた「酵母」について詳しく説明しています。酵母はカビやきのこと同じ菌のなかまで、英語では「イースト」と呼ばれています。これには「泡」「浮き上がる」と

いった意味があり、発酵する際にブクブクと泡立つことに由来しています。日本では発酵の元になる「母」ということで、「酵母」と呼ばれているのだそうです（p. 4）。食べ物が発酵することを知ったことで、人が酵母の存在に気づいたことが分かります。

同じく「菌の絵本」シリーズから、『ねん菌〈へんけい菌〉』。「ねん菌（粘菌）」は一見、菌のなかまと思われがちですが、実はアメーバのなかま。「粘菌」を通じて「菌」と人との関わりを知ってほしいという思いから、本シリーズとして刊行されたとのこと（p. 2）。「粘菌」は、人間との直接的な関わりがない生き物であるため、多くの人に知られていませんでしたが、実は地球上で多様に進化したものの中でも、特別な能力と生き方を獲得してきた生物です。様々な姿に変わるため、「変形菌」とも呼ばれています。英語では「スライムモールド」（＝ねばねばしたカビ（p. 4））という表現で、これを漢字に置き換えて「粘菌」となったそう。粘菌は「森の宝石」と呼ばれており、その大きさは数センチ～数十センチ。光やエサが少なくなると、子孫を残すために、たった一晩で胞子を飛ばすための子実体へと姿を変えます。子実体は色とりどりで美しく魅力的です。本書は写真がきれいですが、クレヨンとクレパスによる独特な画法で描かれた、加藤休ミさんのイラストも印象深いです。粘菌研究では、分類学・民俗学で知られた、南方熊楠が有名ですが、最近では、粘菌の魅力にとりつかれ、小学校1年生の頃から飼育と研究を続けてきた、若き研究者・増井真那さんも講演されたり、話題になりました。

次に「微生物」について扱った本から、『ほうさんちゅう』（アリス館）。聞きなれない「ほうさんちゅう」とは、ガラスの骨（二酸化ケイ素）を持つ不思議な生き物で、名前に「虫」とありますが、「虫」ではありません。アメーバ状の3mmほどの小さな単細胞の原生生物で、放射状に広がる形をしたものが多いことから「放散虫」と名づけられたそうです。海の浅いところから深いところまで、世界中のあらゆる場所で生きています。様々な、ほうさんちゅうの姿は、5億年の時をかけて積み重ねた形です。本書では、電子顕微鏡で500倍の大きさに拡大された、いろいろな美しい「放散虫」の姿が収められています。

『先生、ウンチとれました』（さ・え・ら書房）では、動物の「ウンチ博士」が、野生動物のウンチから腸内細菌を検出して培養し、細菌の働きや進化、ヒトへの影響などを探っていきます。調べるのは自然界で生きる野生動物のウンチでなければならぬと、アフリカの奥地で何日もゴリラやゾウが排便するのをじっと待ち、いなくなってから、すばやく採取。実は「ウンチ」の60～70%は水分であり、残りの大半は細菌と食べ物のかすであるそう。腸内細菌は動物の身体の働きを支える欠かせないものであり、この細菌を調べることで、その動物の生態や生理について深く理解することができると書いています。フィールド研究の大変さとともに、楽しさが文面から伝わってくる一冊です。

■植物

『ようこそ！葉っぱ科学館』（少年写真新聞社）。著者は、植物生態学者として広く植物の繁殖戦略や、虫や動物との相互関係を調査している多田多恵子さん。「植物たちの声を聞く たえこ先生のお！観察記」シリーズからの一冊です。生きるための知恵を働かせている葉っぱ。葉っぱの一番大事な仕事は光合成。地球上の生きものの命を支えてくれているといえます。水玉ころりん、葉っ

ばマジック、若葉のサングラスなど、どのページも表現が面白く、めくるたびに驚きの連続で興味深く、葉っぱについて、いろいろな見方が楽しめる本です。

続いて『ずかん こけ』。技術評論社の「ずかん」シリーズからは、ほかにも『プランクトン』（2011年12月刊）『細菌』（2016年9月刊）なども刊行されています。本書では、様々な場所に生えている「コケ」を紹介。「コケって何？」という素朴な疑問から、「街中のコケ」、「公園・寺社・街路樹のコケ」、「田畑のコケ」など、全国のコケにスポットをあてて紹介しています。そのほか、「鉄や銅が大好きなコケ」や「うんちに生えるコケ」といった、興味を引かれるコラムも収録されています。

■無脊椎動物・昆虫

岩崎書店「よみきかせいきものしゃしんえほん」は、「小さな生き物たちの誕生や成長の様子」をダイナミックな写真で展開しているシリーズで、「命のドラマ」を私たちに見せてくれます。紹介するのは、『うまれたよ！ナナフシ』。皆さん、ナナフシを見たことがあるでしょうか。体も足も細長い、緑色の体をした昆虫です。春になると、産みつけられた卵のふたが、ぱかっと開いて、小さなナナフシが生まれます。その小さなナナフシがどのように生きているのか、どうやって大きくなっていくのかを、美しい写真でじっくりと追っていきます。最後の「ナナフシのせいちょうのきろく」では、実物と同じ大きさのナナフシの姿も収められています。小学校低学年から楽しめるシリーズの一冊です。

『われから』もまた、ユニークな生き物を紹介した本です。その名も「海のナンジャコリヤーズ」シリーズ（仮説社）の一冊。男の子とお父さんが海へ潜り、泳いでいくと、様々な不思議な生き物たちに出会います。その生き物たちの中に、ひょこひょここと踊るように動く生き物が…。それが「われから」。海の藻場に住む小さな生物です。本書の文章を書いているのは青木優和さん。「われから」を長年研究し、同級生の畑中富美子さんに絵を依頼して自費出版された「われから」への思いが詰まった一冊です。本書巻末の「著者紹介・あとがき」ではQRコードも載っていて、われからの生きた姿をYouTubeで見ることできます。

ナマコも、生態があまり知られていない生き物の1つではないでしょうか。『ナマコ天国』（偕成社）を開いていくと、何とも不思議な絵がいっぱい。ふしぎな黒いかたまりのナマコは、世界中の海にいる、ウニやヒトデと同じ棘皮動物です。心臓も脳もなく、体重の半分以上が皮であるといいます。そして、まっぷたつにされても2匹になるだけ。古事記や俳句にも登場し、日本では古くから食されていました。本書の著者は動物生理学が専門の本川達雄さん。『ゾウの時間ネズミの時間』（中央公論社、1992年8月刊）でも注目され、この本は福音館書店から『絵ときゾウの時間とネズミの時間』（1994年4月刊）というタイトルで、絵本としても出版されています。ちなみに本川さんはシンガーソングライターでもあり、『ナマコ天国』の巻末にはご本人が作詞・作曲した歌も収録されています。

家の中でもよく見かける小さなクモを紹介した写真絵本『ハエトリグモ』（ポプラ社）。とても小さなクモで、ぴょんぴょん飛び跳ねている姿がよく目撃されますが、網を張らず、獲物に直接飛び

かかる、獯猛なハンターでもあります。ハエトリグモの狩りのワザ、足を上げる求愛・威嚇の行動や子育ての様子など、その生態を写真で追っています。愛らしい赤ちゃんグモの写真、子グモの美しい写真など、ハエトリグモを飼育している作者ならではの写真が紹介されていて目を見張ります。姿が違うオスとメスのミニ図鑑も巻末に掲載されています。

こちらユニークな生き物を取り上げた本『ふしぎないきものツノゼミ』（あかね書房）。「ツノゼミ」は名前に「セミ」とありますがセミではなく、実はカメムシのなかまです。分類学的には「カメムシ目」に属する昆虫。またセミと違い、その鳴き声は人間には聞こえません。様々な姿をしたツノゼミの謎いっぽい生態が、貴重な写真と解説で分かりやすく紹介されています。体長7.5mmのハタザオツノゼミの羽化シーンは必見です。

■魚類・両生類・爬虫類

『日本カエル探検記』（少年写真新聞社）。私たちにとっても身近な生き物であるカエル。しかし、その数は年々減少しているそうです。例えば、田んぼや畑にすむニホンアカガエルにとって、水辺環境はとても大切です。しかし、田んぼなどを使いやすくするために行う圃じょう整備や宅地開発が、その生態系に大きな影響を及ぼしています。そのほかにも外来種のカエルが、日本固有種のカエルの存在を脅かしているとも。自然写真家の関慎太郎さんが日本各地のカエルの住処を訪れ、本書を通じて生態系を守ることの重要性を伝えています。

■鳥類

「鳥類」からは、竹田津実さんの「北国からの動物記」シリーズ（アリス館）の『クマゲラ』。クマゲラは、北海道に生息する大型のキツツキで、虫を探して木を掘るときの「ドドド」という音は豪快です。アイヌの人々には「チプタ・チカプ・カムイ」（＝「舟を掘る鳥神」（p. 38））とも呼ばれているそうです。本書には、子育てをするクマゲラの姿なども収められ、森の営みを慈しみながら見守っている著者の姿が垣間見えます。自然への畏敬の念と生き物への温かな眼差しが伝わってくる作品です。

『うみどりの島』（偕成社）は、北の海に浮かぶ島に渡ってくる海鳥たちを描いた絵本。天売島は人口300人の小さな島ですが、毎年100万羽の海鳥たちがやってきます。5月になると鳥たちは卵を産んで暖め、ヒナを育てます。顔に白い羽毛をはやしたウトウ、ケイマフリ、ペンギンに似たウミガラス、ウミスズメなど、鳥たちが子育てを行う場所は種類によって様々。ヒナたちは魚を食べて大きくなります。生命にあふれる天売島の1年と、海鳥たちのたくましい姿があべ弘士さんの絵で描かれています。

■環境・エネルギー

2019年は、特に環境問題が大きく取り上げられる年でした。そこで「環境・エネルギー」というテーマでまとめた本をいくつか紹介します。

1冊目は『国谷裕子と考えるSDGsがわかる本』（文溪堂）。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された国際目標。現在、国連に加盟する193か国が対応を求められています。「SDGs」とは、「Sustainable」（＝

持続可能な「Development」(=開発)「Goals」(=(17の)目標)。「地球を破壊から守る」、そして「だれひとり取り残さない」ということを前提に、「質の高い教育をみんなに」「安全な水とトイレを世界中に」「気候変動に具体的な対策を」など、具体的なSDGsの17の目標と、169のターゲットなどについて、イラスト、イメージ画で分かりやすく解説した1冊です。

続いて『ポリぶくろ、1まい、すてた』(さ・え・ら書房)。プラスチックごみも現在、世界で大きな問題になっています。ポリぶくろ(プラスチックバッグ)は便利で使いやすいものですが、大量に廃棄され、それがそのままゴミに。ポリぶくろを誤って食べてしまった動物や鳥たちが、たくさん死んでいるのです。このゴミを何とかしようと立ち上がった女性アイサト。まず、ポリぶくろを1枚ずつ拾い集め、100枚を持ち帰り、洗い、干して糸のようにして財布を編み上げました。そして市場で売り、お金に変えました。リサイクルです。リサイクルによってゴミの山はへりました。西アフリカ・ガンビアに住む、環境保全に取り組んだ実在の女性について描いた物語です。

SDGsについて上記で述べましたが、では、世界の未来を変えるために、具体的に私たちには何ができるのでしょうか。そのヒントとなるのが『身近でできるSDGsエシカル消費』(さ・え・ら書房)シリーズ。第1巻『エシカル消費ってなに?』では、私たちが日常生活の中で何気なく行っている買い物も、実は世界とも大きくつながっており、私たちが意識を変えることで、未来も変えることができるかもしれないと書いています。そのカギとなるのは「リデュース(Reduce=「削減」)」「リユース(Reuse=再利用)」「リサイクル(Recycle=再資源化)」の「3R」。アフリカ出身の運動家・ワンガリ・マータイさんは、それに「リスペクト(Respect=尊敬)」を加えて「4R」としています。彼女が言う「Respect」とは、「フェアトレード」を意味。生産者に対しふさわしい対価を支払うことで、その権利を守ろうというものです。例えばカカオ農家などに対し、フェアトレードを行うことは、途上国の自立を支援することにもつながります。そのほかマータイさんは、日本語の「もったいない」は、環境を守る世界共通語でもあると述べています。

『プラスチック・プラネット』(評論社)も、プラスチックごみの深刻さについて説明しています。著者のジョージア・アムソン=ブラッドショーさんは、イギリスの児童書作家であり、子ども向けの科学雑誌の編集者でもあります。本書では、廃棄されたプラスチックが環境汚染につながっていることを、事例を挙げて説明するほか、もう1つの大きな問題となっている、マイクロプラスチックについても取り上げています。マイクロプラスチックは洗剤や歯磨き粉、服のフリースのプラスチック繊維にも含まれ、とても粒子が小さく、様々なものをすり抜けてしまします。水路に流れ込んだマイクロプラスチックは、食物連鎖に取り込まれ、海や陸の生物に様々な影響を及ぼしています。これらのプラスチック問題に対して何ができるか、どのように向き合っていくべきかなどを伝えている一冊です。

近年、地球温暖化による北極や南極への影響も深刻になってきています。『北極と南極の「へえ〜」』(学研プラス)では、似ているようで違うところも多い北極と南極について、「どちらが寒いのか」「どんな動物がいるのか」など素朴な疑問に答えつつ、後半で北極と南極における様々な事例を挙げて、地球に起こっている様々な問題について伝えています。本書の第4章では、二酸化炭素や

メタンなどが「温室効果ガス」と呼ばれていて太陽の熱が宇宙へ出ていくことを妨げていること、1980年代と2012年以降の状況を比較し、北極の平均気温が約2倍上昇していること、面積が半分にまで縮小しているといったことなどを説明。著者は、第45次南極観測越冬隊に初の女性記者として同行した中山由美さんです。

『海は地球のたからもの』シリーズ（ゆまに書房）の第1巻『海は病気にかかっている』では、海役割や仕組み、海洋汚染問題などを詳しく解説しています。地球温暖化、海水温の上昇、海水の「酸性化」について分かりやすく解説し、これらの要因によってサンゴ礁の多様性が失われるなど、生態系への深刻な影響についても述べています。また、プランクトンをはじめとした海の生き物たちの役割とともに、プラスチックなどに汚染されている現状を説明しています。昨年、『クジラのおなかからプラスチック』（旬報社）が出版されましたが、そういった本とも合わせて紹介したい作品です。

■防災・防犯・サバイバル

『親子で学ぶ防災教室 新装版』（理論社）のシリーズから、『災害食がわかる本』。こちらは、2018年に刊行された『防災教室 災害食がわかる本』を再編集したもので、親子で読めるようソフトカバー化され、価格もお手軽になりました。著者は防災士、災害食専門員でもある今泉マユ子さん。災害食とはどんな食べ物か、火を使わずに温められる方法、日常的に備蓄しておくべき食べ物などが紹介されています。本書と同時刊行された『親子で学ぶ防災教室 身の守りかたがわかる本 新装版』も併せて読んでおきたい一冊です。

■科学技術・産業

「科学技術・産業」というテーマからは、『47都道府県調べて楽しい！！あなたのまちの凄い！地場産業めぐり』（教育画劇）シリーズの3巻目は、『自然と技術の融合』です。中国・四国・九州・沖縄、各県の地場産業、伝統工芸品、特産品、主要産業などを取り上げています。有名なものにかぎらず、あまり知られていないものも紹介しています。

■農業・畜産・水産業

ICT化は農業、畜産、水産業でも進んで取り入れられています。近未来の農業・漁業を紹介する『科学がひらくスマート農業・漁業』シリーズ（大月書店）、全4巻が刊行されました。第1巻は近未来の米作り、『人工衛星とITで米づくり』。第2巻『野菜とフルーツを工場で作る』では、①工場で野菜を作る、②最新技術で野菜作り、③科学の目がとらえた野菜・フルーツの世界などを紹介しています。第3巻は畜産のICT化について、『肉とミルク、卵をつくる新技術』。第4巻『魚をそだてる海の牧場』では漁業における驚きの最新技術について紹介しています。クロマグロやウナギの完全養殖など「とる漁業」から「育てる漁業」へのシフトチェンジ、ICTや人工衛星を活用した新しい漁業について触れています。ICT化のメリット、デメリットを考えて紹介していきたいシリーズです。

『田んぼの1年』（偕成社）。昭和30年頃から、日本人の暮らしも大きく変わりました。機械化が進むにつれて田んぼの環境も変化し、そこで生きる生き物たちも急速に姿を消してゆきましたが、

この作品では、実り豊かな里山の田んぼの様子が、季節ごとに美しい絵で描かれています。春に行うのは、水路そうじや田起こし、泥と水をかき混ぜる「代かき」など、米づくりの前に必要となる様々な作業。田植えを行うのは初夏です。その後、夏の暑い時期に水を抜いて土を乾かす「中干し」と呼ばれる作業が行われ、育った稲は「出穂」（しゅっすい＝稲の穂が出て花が咲くこと）し、やがて穂が実っていきます。1年を通じての田んぼでの作業や、そこで暮らす生き物たちについて知ることができると同時に、季節ごとに移り変わっていく田んぼの景色を楽しむことができます。

■土木・建築

「土木・建築」という珍しいテーマでも何冊か出版されていますが、その中から『[地下都市のたんけん](#)』（星の環会）を紹介。こちらは「土木の世界ードボジョママに聞くー」シリーズからの1冊。「土木」というと「泥」や「土」、「工事現場」といったイメージですが、私たちの暮らしを支える「土木」について考える（p. 3）というコンセプトから刊行された学習絵本であるそうです。「地下都市のたんけん」では、地下鉄や上下水道、ガス管、電気などのライフライン共同溝、地下貯水槽などの地下構造物について解説。素粒子ニュートリノの研究により、小柴昌俊氏や梶田隆章氏などがノーベル物理学賞を受賞したことなどでも注目されるようになったスーパーカミオカンデや、東京・渋谷の雨水貯留槽などについても取り上げています。土木の仕事に携わる女性技術者によって構成された「一般社団法人土木技術者女性の会」が、分かりやすく解説しています。

■福祉・障害

「福祉・障害」では、『[あの子の発達障害がわかる本](#)』シリーズ（ミネルヴァ書房）の第1巻『[ちよっとふしぎ 自閉スペクトラム症ASDのおともだち](#)』。ASDを持つ人々にはどのように周りが見えているのか、感じているのかを知るきっかけになる本です。また、そのような子たちにどう関わっていけばよいのか、いろいろな事例をあげて説明、「こうすればうまくいきそう！」など、ヒントもくれます。本シリーズでは、このほか『[ちよっとふしぎ 学習障害LDのおともだち](#)』や『[ちよっとふしぎ 注意欠如・多動症ADHDのおともだち](#)』『[ちよっとふしぎ 吃音・チック・トゥレット症候群のおともだち](#)』と、各巻で様々な例を挙げて解説しています。

■伝記・生き方

近年、世界を変えようと発言する子どもたちの活躍も目立っています。『[わたしは女の子だから世界を変える夢をあきらめない子どもたち](#)』（西村書店）。貧困、紛争や性差別。そんな現実を変えるためにできることは何だろう？「女の子だからこそ」、家族を貧困から救えるはず、世界を変えることができるはずと立ち上がった女の子たちを紹介。本書に登場するのは、ネパール、ジンバブエ、パキスタン、フィリピン、南スーダン／ウガンダ、ペルー、ウガンダ、カナダからの8人です。ノーベル平和賞を受賞し、世界的にも注目を浴びた女の子マララ・ユスフザイさんは言います。本とペンを手に取ろう、それが自分たちにとって最も強力な武器となるから。1人の子ども、1人の教師、1本のペンと1冊の本が世界を変えることができる。教育こそが、ただ1つの解決策である、と。女の子たちの力強いメッセージを感じることができる本です。

『[自由への道](#)』（学研プラス）は、奴隷解放に身を捧げた黒人女性の生涯を描いた作品です。1822年、アメリカで奴隷の子として生まれたハリエット・タブマンは、その功績により紙幣にも取

り上げられました。生まれたときは「アラミンタ」という名で、「ミンティ」と呼ばれていたハリエツト。かつて奴隷は、幼い子どもでも朝から晩まで働かされ、奴隷主に売買されていました。過酷な少女時代を送ってきた彼女ですが、後に自由を求めて逃亡し、秘密組織「地下鉄道」の一員として、多くの奴隷を救う活動に身を投じるようになります。これは、そんなハリエツトの自由を追い求めた闘いの記録です。

1974年に刊行された本を底本に、科学技術史に偉大な足跡を残した41人について取り上げた『科学者の目 新版』（童心社）。著者は2018年に亡くなられた、かこさとしさんです。工学博士・技術士としてのかこさんの視点を通じて、様々な科学者の発想や着眼点のユニークさを分かりやすく描いた人物伝です。巻末の「科学技術史略年表」を更新し、鈴木万理さん（かこさんの長女、加古総合研究所）の「あとがき」を新たに加えて復刊されました。

「アンネの日記」について関連した、いろいろな本が刊行されていますが、『かくれ家のアンネ・フランク』（岩波書店）はオランダのジャーナリスト、ヤニー・ファン・デル・モーレンさんが、アンネ・フランク財団の協力を得て、彼女の日記や歴史的な資料、事実に基づき執筆した本です。アンネの家族、周辺の様々な人たちとの交流、アンネの成長とともに変化していく心情など、隠れ家でのアンネの様子がイラストとともに丁寧に紹介されています。巻末には、アンネ一家の写真なども掲載されています。

■社会・暮らし・文化

変わって、「社会・暮らし・文化」というテーマで集めた本を2冊紹介します。『めぐみの森』（新日本出版社）は何万年から何千年もの間、森からとれる「めぐみ」によって、ミャンマーとタイ国境の深い森で自給自足の生活をして生きてきた先住民たちの知恵などを紹介しています。多様な動植物が生息する森に生きる先住民族たちは、「何が体にいいのか、動物たちが教えてくれる」、森には人が豊かに暮らすための「めぐみ」がたくさんあるといい暮らしています。先住民の人々は、動物が食べている植物や虫を、薬や食材などに使っていました。しかし現在、天然の森の木々が倒され、豊かな森も失われつつあり、先住民の知恵も消えようとしています。私たちが大切にすべき「豊かさ」とは何か、長年、環境破壊の現場で写真を撮り続けてきた著者は、この本でそれを問いかけています。

『わきだせ！いのちの水』（フレーベル館）。アフリカの井戸のない地域では水に乏しく、そこに暮らす人々は不衛生な水を飲んだり、水を汲むために何時間もかけて往復するしかありませんでした。水汲みは女性の仕事で、子どもたちもその手伝いをさせられていたために、足を滑らせて川に落ちるといった事故も多く起こっていました。ボランティア活動家であり、NPO法人インターナショナルウォータープロジェクトの理事長を務める大野篤志さんは、日本の「上総掘り」を応用した「新方式上総掘り」という技術を用いて、現地の人々と共にアフリカの各地で井戸掘りを行い、「いのちの水」を汲み出すことに成功します。その後、大野さんは子どもたちに向けて「環境紙芝居」を行ったり、環境教育等にも努めています。国際支援を考える本として伝えたい一冊です。

■歴史・考古学

『えほん東京』（ポプラ社）は、東京の歴史をたどる「旅の絵本」ともいうべき、まちの記憶をたどる一冊。おじいちゃんを誘って、外に出かけると海のおいがしてきます。見えるのは東京湾。東京の様々な場所を訪れながら、スカイツリーが描かれた東京の「いま」と、江戸時代の海や川が「むかし」を伝えていて、東京の四季の旅を見ることができます。作者の小林豊さんの独特のタッチで描かれた絵本で、「まちは、たくさんの人間のいろんな生活のおもいでを、刻みこんで大きくなった」と書かれています。

『ミイラ学』（今人舎）はミイラ作りについて取り扱った珍しい本です。時代は紀元前50年、物語は王室御用達のミイラ職人の家族を中心に展開していきます。彼らは死者の体を丁重に扱い、永遠に保存するという仕事を行っていました。私たちが現在知り得ているミイラ化の技法は、紀元前484～425年にギリシアの歴史家ヘロドトスが記した内容に基づいているそうです。エジプトのイウヤとチュウヤのミイラは、最も保存状態が良い形で発見されました。ツタンカーメン王の墓が発見される以前の出来事で、大きな話題にもなりました。現在、これらのミイラはカイロ博物館で保存されています。鮮やかで精巧な絵が美しく、ミイラ作りと王族の葬送の儀式などについても分かる一冊です。

■戦争と平和

社会情勢が不安定になっている昨今、「戦争と平和」も特に外せないテーマです。その中から紹介するのは『シリーズ戦争 語りつごう沖縄』シリーズ（新日本出版社）の第4・5巻『基地問題にゆれる島』と『沖縄戦を忘れない』。この2冊の文章を書き、監修を行ったのは立命館大学 国際平和ミュージアム名誉館長の安齋育郎さん。また第4巻では、沖縄ひめゆり平和祈念資料館 館長を務める普天間朝佳さんも監修を務めています。お2人は、「過去におこった悲惨な出来事を人びとに伝えて、もう2度とこういう悲劇を繰り返さずに、いっしょに平和な社会をつくろう」（p. 20）という思いから、平和を訴える活動に取り組み続けています。第5巻では、沖縄県に建てられた慰霊塔や、沖縄戦における悲劇の舞台となった「ガマ」（自然洞窟）、戦争や平和について学ぶための資料館や博物館などを取り上げて解説。戦争の悲劇を伝える島・沖縄について知り、語り継いでいくために伝えていきたい本です。

広島の高中生たちが「8月6日の記憶」を描いていく1年を追った『平和のバトン』（くもん出版）。広島と長崎に原爆が投下されてから、今年で75年。戦争が終了してから長い年月が過ぎ、被爆体験者の方々も年々少なくなってきました。その記憶を薄れさせないため、2007年に広島平和記念資料館があるプロジェクトを立ち上げました。それは「次世代と描く原爆の絵」。広島県広島市立基町高等学校の創造表現コースで学ぶ生徒たちが、被爆体験証言者の見た風景を絵画として記録するという取り組みです。「このままでは、原爆のことが忘れられてしまう」と立ち上がった証言者の方々と高校生たちは、伝えること、表現することの難しさに直面しながらも、何度も対話を重ね、1年近くかけてその「記憶」を油絵に記録していきます。綿密な取材に基づき、本書を執筆したのは、作家でジャーナリストでもある弓狩匡純さん。高校生たちが戦争や原爆を見つめ直していく姿を追ったノンフィクションです。

同じく、原爆の悲劇を伝える写真絵本『ヒロシマ 消えたかぞく』（ポプラ社）。1945年8月6日、広島に原爆が落とされるまで、確かにそこで生きていた家族の記録です。広島に投下された原子爆弾によって、鈴木六郎さんの一家は全滅しました。しかし、家族の幸せな日々を写し出したアルバムは残ります。一家の何気ない日常を切り取った写真の数々。言葉はありませんが、逆に見る者に強く訴えかけてくる作品です。

『戦場の秘密図書館』（文溪堂）は、シリア内戦下の町ダラヤが舞台のノンフィクション。政府軍による完全封鎖で日々空爆が続くなか、絶望的な状況を救い、明日への希望をつないだのが図書館であり、本でした。戦場で死と隣り合わせの日々を送る若者たちは、がれきの中から本を探し出し、廃墟の地下室に集めていきます。そこはやがて、戦闘員の少年少女たちが集う場所になっていきました。アブー＝マーリクがダラヤの廃墟の壁に描いた「HOPE」という文字は、世界の人々の心も動かしました。マイク・トムソン氏による著書を、児童書向けに小国綾子さんが編訳。秘密の図書館を守り抜いた若者たちの姿を描いた作品です。

■伝統工芸・文化

伝統工芸をテーマにした本も、いくつか出版されています。岩崎書店『伝統工芸の名人に会いに行く 1 やきもの』。文と写真は、瀬戸山玄さん。鹿児島出身のドキュメンタリスト・記録家のかたです。本シリーズでは、大分県日田市の「おんた焼き」や、紙漉きで知られる「小川和紙」、大館市の「曲げわっぱ」などを取り上げています。

『よみがえった奇跡の紅型』（あすなろ書房）。沖縄を代表する伝統工芸である「紅型」は、沖縄の気候風土に合った独特な染め物で、琉球王朝時代に完成しますが、明治末期、衰亡の一途をたどります。しかし、紅型の独特の美しさに関心を持っていた鎌倉芳太郎は紅型の研究をし型紙を収集して貴重な資料を残しました。城間栄喜は沖縄戦争後、瓦礫の中から奇跡的に紅型を再生し、芹沢銈介は紅型に魅了され型絵染という新たな道を拓きました。紅型に捧げた彼らの人生について知ることができる本です。素敵な文様の紅型がカラー写真で紹介されていて魅了されます。

■国際理解

『故郷の味は海をこえて』（ポプラ社）は、難民として7つの国からやって来て日本に暮らす人たちが、なぜ、それぞれの国を離れなくてはならなかったのか、どのように日本にたどりついたのかを、たくさんの写真とともに、難民の人たちの故郷の料理について語っています。著者はフォトジャーナリストの安田菜津紀さん。本書には「Q&A」や「コラム」なども挟まれ、日本の「入管」施設や難民の受け入れ人数の少なさなど、日本が抱える様々な課題についても言及しています。本書を通じて、「食べ物は思いを呼び起こすものである」ということが、温かく伝わってきます。

■哲学・心理学・道徳

「道徳」の授業はいつ生まれたか、いつ正式な教科となったかなどについて解説した『シリーズ・道徳を考える』（かもがわ出版）シリーズの第3巻『なぜ、道徳を学ぶの？』。本書では「いじめ」についても考えていきます。本書の刊行に協力しているのは、物事のおおもととのわけや筋道（道理）を研究する学問を専門とする思想家で、『日本辺境論』（新潮社、2009年11月刊）で新書大賞

を受賞した内田樹さんです。シリーズを通じて、「学ぶ」とはどういうことかを伝えています。特に本シリーズの第1巻『道徳ってなに?』は、「道徳」という言葉について考え、「誰かがしなければいけないこと」などについて「考えてみよう」と書かれていて、子どもに本を手渡していく大人にも読んでほしい一冊です。

■大人向け

最後に、大人向けの本を紹介します。『かがくのとものもと』(福音館書店)です。初の子ども向け月刊科学絵本として1969年に創刊された「かがくのとも」は、昨年で50周年を迎えました。本書の帯にもあるように、「かがくのとも」は、断片的な知識や情報を提供するのではなく、内容と表現に工夫をこらし、子どもたちが楽しめるような作りになっています。本書では増刊号を含めた601作品すべてが紹介されているほか、「かがくのとも」ができていく過程などが盛りだくさんに掲載されています。また、500号を迎えた際に折り込み付録として収録された、加古里子さんや長谷川摂子さんなどをはじめとする、たくさんの作家の方々からの直筆メッセージも紹介されています。「猛烈に大人で猛烈に子どもでありたい」といった瀬田貞二さんの言葉などは、とても印象的です。「かがくのとも」が、子どもたちに科学の楽しさを伝えてきたことがおおいに伝わってくるとともに、資料としても貴重な本です。

(了)